

平成27年度 教科に関する研究

研究主題

学習指導上の課題を踏まえた，児童生徒の
学びの充実を図る授業づくり

音楽

表現領域における表現力を育てる音楽科授業づくり

—思考・判断し，表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して—



目 次

I	主題について	1
II	授業研究	
	【授業研究 1】	2
	小学校第 6 学年「曲想を味わおう」における思いや意図をもって表現する力を育てる音楽科授業づくり	
	－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－	
	【授業研究 2】	8
	中学校第 1 学年「リズムの重なりを生かして表現しよう」におけるイメージしたことを創作で表す力を育てる音楽科授業づくり	
	－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－	
	【授業研究 3】	14
	高等学校第 1 学年「音楽の特徴を生かして表現しよう」における表情豊かに歌唱表現する力を育てる音楽科授業づくり	
	－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－	
III	研究のまとめ	20

音楽科研究主題

表現領域における表現力を育てる音楽科授業づくり

－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－

I 主題について

1 音楽科における学習指導上の課題について

音楽科の表現領域では、育むべき表現力が二つある。一つ目は、思考・判断した過程や結果を言語活動を通じて表す力、二つ目は、音楽活動を通じて、歌唱、器楽、創作（音楽づくり）で表す力である。

これまでに、各学校では、この二つの表現力を、思考・判断し、表現する一連の過程において育ててきた。その成果として、児童生徒が表現に対する自分の考えや願い、意図をもつことができるようになってきていることが挙げられる。

一方で、表現に対する考えや願い、意図が、実際の歌唱、器楽、創作（音楽づくり）の表現に十分に反映されていないという現状が見られ、二つの表現力をバランスよく育てることができていないと考える。このことは、思考・判断し、表現する一連の過程において、音楽活動よりも言語活動に重きが置かれていること、言語活動と音楽活動が結び付いていないことなど、学習・指導内容に応じた適切な学習活動が設定されていないことに起因すると考える。

2 学びの充実を図る授業づくりについて

本研究主題に迫るために、思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫をする。具体的には、表現に対する考えや願い、意図が、実際の歌唱、器楽、創作（音楽づくり）の表現に十分に反映されていないという現状から、音や音楽で表現するための知識や技能を習得する活動と、習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある表現をつくり出す活動が必要であると考え。その際、これらの活動において、言語活動と音楽活動の関連を図る。言語活動には「音や音楽」で試すなどの音楽活動を、音楽活動には「言葉」で確かめるなどの言語活動を取り入れ、「言葉」と「音や音楽」を往還させながら考え、表現する活動となるようにする。このような活動を通して、二つの表現力をバランスよく育てていくことが、本研究における、児童生徒の学びの充実を図ることであると捉える。

これらのことを踏まえ、以下のア、イの2点を手立てとした授業研究を行う。

ア 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

題材の学習・指導内容を明確にし、児童生徒の実態を踏まえ、段階的に知識や技能を習得できるようにする。

イ 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある表現をつくり出す活動

表現に対する考えや願い、意図をもち、それを音や音楽で表現するために試行錯誤できるようにする。また、その過程において、表現意図を明確にしたり、音や音楽で表現するための新たな知識や技能を習得したりできるようにする。

Ⅱ 授業研究

【授業研究1】

小学校第6学年「曲想を味わおう」における思いや意図をもって表現する力を育てる音楽科授業づくり

－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－

1 主題設定の理由

児童の実態を把握するために、事前調査（平成27年7月1日実施，調査人数35人）を実施した。その結果から，21人の児童が，いろいろな楽器を用いた器楽合奏を好んでいることが分かった。器楽については，これまでに，リコーダー奏や器楽合奏，金管楽器の体験をしてきたことで，様々な楽器に興味をもって活動している。しかし，それぞれが楽器を演奏することに一生懸命で，音楽の特徴や曲想を生かし，思いや意図をもって演奏することには至っていない。児童が思いや意図をもって表現できるように，学習活動の工夫改善を図ることが課題である。

そこで，小学校第6学年「曲想を味わおう」では，歌唱，器楽，鑑賞の学習を通して，旋律の特徴から曲想を感じ取り，音楽全体を味わって聴いたり，曲想にふさわしい表現の工夫をして演奏したりすることをねらいとする。そのために，まず，歌唱の学習において，旋律の音の動きや旋律の重なり方など，旋律の特徴をつかむ。次に，鑑賞の学習において，旋律の特徴を手掛かりに曲想を感じ取る。これらの学習によって，旋律の特徴やその表現によって曲想が変わることに気付けるようにする。そして，器楽の学習においては，歌唱や鑑賞の学習を踏まえて，音楽全体の曲想を捉え，それにふさわしい表現にするために，旋律，音色，強弱，速度などを工夫して演奏する。これらの学習を通して，旋律の特徴や曲想を生かし，思いや意図をもって表現する力を育てていきたいと考える。

2 主題に迫るための授業づくり

(1) 題材名

「曲想を味わおう」

(2) 題材の目標

旋律の特徴から，曲想とその変化を感じ取って聴いたり，曲想にふさわしい表現の工夫をして演奏したりする。

(3) 教材

「広い空の下で」 高木あきこ 作詞／黒澤吉徳 作曲

「ハンガリー舞曲 第5番」 ブラームス 作曲

「風を切って」 土肥武 作詞／橋本祥路 作曲

*参考教材

「しっぱれー！」 北村雅彦 作曲

動物の謝肉祭より「白鳥」 サン＝サーンス 作曲

(4) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>①曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。</p> <p>②曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p>	<p>①曲想を生かした歌い方で歌ったり、演奏したりしている。</p>	<p>①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。</p>

(5) 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第1次 (2)	○旋律の特徴をつかみ、その違いを生かして表現する。	<p>【歌唱】</p> <p>㊦「広い空の下で」</p> <p>㊧「しっばれー！」</p> <p>・範唱CDから聴き取ったり、楽譜から読み取ったりして、旋律の特徴をつかむ。</p> <p>・歌いながら旋律の音の動きや旋律の重なり方を確かめる。</p> <hr/> <p>・旋律の音の動きや旋律の重なり方の違いを生かして二部合唱する。</p>	旋律 フレーズ	アー① イー①
第2次 (2)	○旋律の特徴から曲想とその変化を感じ取って聴く。	<p>【鑑賞】</p> <p>㊨「ハンガリー舞曲 第5番」</p> <p>㊩動物の謝肉祭より「白鳥」</p> <p>・音楽を聴いて、曲想の変化を感じ取る。</p> <p>・旋律の特徴を図形や線で表す。</p> <hr/> <p>・友達の表した図形や線から音楽</p>	旋律 フレーズ 強弱 速度 反復 変化	アー② エー①

		を想像したり、音楽で確かめたりする。 ・音楽に合わせて身体を動かす。 ・音楽を言葉で表す。		
第3次 (4)	○曲想にふさわしい表現を工夫して演奏する。	【器楽】 ⊗「風を切って」 ・①と②の旋律をソプラノリコーダーで演奏する。 ・曲名を想像する。 ----- 第2・3時 ・「植村直己物語」を視聴する。 ・音楽全体の曲想を捉える。 ・旋律の特徴をつかみ、イメージを膨らませながら表現の仕方を工夫する。 ----- ・工夫したことを生かして合奏し、録音する。 ・自分たちの演奏を鑑賞する。	旋律 フレーズ 音色 速度	アー① ----- イー① イー② ----- ウー①

(6) 思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫

ア 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

「曲想を味わおう」において、思いや意図をもって表現する力を育てるために、まず、曲想を感じ取れるようにする。そのために、旋律線を基に旋律の特徴をつかむ活動（歌唱）と旋律の特徴から曲想を感じ取る活動（鑑賞）を位置付ける。

イ 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある表現をつくり出す活動

曲想から表現に対する思いや意図をもてるようにする。そして、それを音や音楽で表現できるようにする。そのために、音楽全体の曲想を感じ取る活動（器楽）と表現したい音楽のイメージをもって表現を工夫する活動（器楽）を位置付ける。

3 授業の分析と考察

(1) 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

ア 旋律線を基に旋律の特徴をつかむ活動（歌唱）

「広い空の下で」において、フレーズごとに音符と音符を線でつなぎ、旋律線を描くことで、旋律の音の動きや重なりを視覚化を図った。それを目で見、声で表現して旋律の特徴をつかめるようにした。児童は、音が上に向かって、下に向かって、上に向かったり下に向かったりして山のようになっている、低い山と高い山があるなどの表現で旋律の特徴をつかむことができた。また、旋律の重なり方についても、高さが違う二つの線が同じように動いている、追いかけてこをして

いるなどの表現で旋律の特徴をつかむことができた。

イ 旋律の特徴から曲想を感じ取る活動（鑑賞）

「ハンガリー舞曲 第5番」を聴いて、音楽が変わったと感じたときに手を挙げるように指示した。そして、なぜそう思ったのか、理由を確認しながら繰り返し音楽を聴かせた。その中で、児童は、旋律の違いによって、音楽が四つの場面に分けられることに気付くことができた。また、それぞれの旋律の特徴を図形や線で表してみることで、より明確に旋律の違いに気付き、それを基に、それぞれの場面がどのような感じの音楽かを考えた。児童は、旋律の特徴によって曲想が変わることや、旋律の特徴を生かした表現の面白さに気付くことができた。

(2) 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動

ア 音楽全体の曲想を感じ取る活動（器楽）

「風を切って」の音楽のイメージ（曲想）をつかむ活動を行った。以下は、その展開と児童の反応である。

学習活動と主な発問	児童の反応
<p>○曲のイメージ（曲想）をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「風を切って」の曲名から思い浮かぶことを話し合う。 T：「風」といったら？ T：「風を切って」の風は？ T：「切って」はどんな感じ？ T：風を切るってどんな感じかな？ ・「植村直己物語の南極の地」の映像を見る。 【視聴場面】風を切って進む犬ぞりの様子 荒れ狂う吹雪の様子 など T：風を切っているのは？ T：風を切って走っている植村さんはどんな気持ちかな？ ・前時の自分たちの演奏を聴く。 T：困難に立ち向かう植村さんの様子が表れているかな？ 	<p>ぴゅー、冷たい、寒い、もあー、温かい、強い風と弱い風、ビュービュー吹いて冷たい風 ザクッ、痛い 風に逆らう、進みにくい、風を受けている、つらいけど進む感じ</p> <p>植村さん、犬ぞり やるしかない、負けられない、強い気持ち</p> <p>表れていない。 曲のイメージに合った演奏にしたい。</p>

「風を切って」は、北極圏12,000kmを犬ぞりで走破した冒険家植村直己さんをイメージしてつくられた音楽である。この音楽の背景となる映像を見ることで、どのような場面や様子、心情などを表した音楽なのかを具体的につかむことができた。また、それらを共有することができた。

イ 表現したい音楽のイメージをもって表現を工夫する活動（器楽）

アの活動で児童が感じ取ったことやつかんだことを、旋律の特徴とつなげることで、更に表現したい音楽のイメージを具体的にしたいと考え、①の旋律の特徴を捉える活動を位置付けた。児童は、第1次での活動を生かして、フレーズごとに音符と音符を線でつないで旋律線を描いていった。資料1（p.6）は、児童が旋律線から気付いたことや考えたことである。

資料1 旋律線から気付いたことや考えたこと

- ・ ㊦ は音型がエベレストの山の形になっている。2回目は、音が高くなっているのでもっと高い山になっている。山を登る感じで力強さがでるといいな。
- ・ ㊦ は、突然高い音になるので、急変する天気を表しているみたい。 ㊦ と ㊦ の違いを出したい。
- ・つらいけれど、気持ちの支えが、ミーファ、ミーファ、レミレーの部分だと思う。あきらめないぞという植村さんの気持ちが伝わってくる。だから、強い音で吹くといいかな。
- ・ ㊦ の付点四分音符は植村さんがつらいと心の中で叫ぶような気持ちなのでは。そして、付点四分音符の後のスタッカートで、そのつらさを吹き飛ばしているような感じがする。 ㊦ では、この二つがポイントかな。

旋律の特徴をつかむことで、表現したい音楽のイメージを具体的にもつことができたと思う。しかし、イメージだけでは、音や音楽で表現することにはつながらない。そこで、音で試しながら表現を工夫する活動を行った。以下は、その展開と児童の反応である。

学習活動と主な発問（*教師の動き）	児童の反応（*児童の動き）
<p>○音で試しながら表現の工夫をする。 （㊦の部分）</p> <p>T：どうしたら植村さんがつらいけれど頑張っているように聴こえるかな？ T：では、やってみよう（録音） T：（再生）どうですか？ T：どうすればいいかな？ *録音と再生を繰り返す</p> <p>T：今度はどう？ *録音と再生を繰り返す</p>	<p>フォルテで演奏する。</p> <p>*リコーダーを吹く。 何か伝わらない、さっきと変わらない。 もっと勢いをつけてみる。 付点二分音符を強く伸ばす。 タンギングのトゥーにアクセントを付けて言う。 *リコーダーで試しながら試行錯誤する。</p> <p>スタッカートにしているのに聞こえないのはどうして？ 普通に吹いているように聞こえる。 みんなのスタッカートが違うのかな。 みんなが合っていないから、きちんと切っているように聞こえないのかも。 ちょっとやってみて？ *友達同士で、グループで聴き合いながら合わせる。</p>

このように「演奏（音で試す）→録音→再生（話し合う）」を繰り返す活動を通して、表現したい音楽のイメージに、徐々に近付けていくことができた。資料2は、この活動後にワークシートにまとめた児童の表現に対する思い（波線部）や意図（下線部）である。

資料2 表現に対する思いや意図（ワークシートからの抜粋）

- ㊦ の部分をもどのように演奏しようと考えましたか。
- ・ ㊦ の部分からは強く吹くようにした。山の上はつらいから。危機が迫っている感じを出したいから。
- ・11～14小節までを叫ぶみたいに吹きたい。植村さんの叫び。
- ・11小節目から18小節目までの付点四分音符のミを支える感じでしっかり伸ばす。植村さんが頑張っている感じを出したい。
- ・ ㊦ の部分のソファミなどの音符は、スタッカートがついていたので、短く音を切って刺すような冷たい感じがでるように演奏したい。

また、この活動を通して、表現したい音楽のイメージに近付けるために、音色を変えたり、スタカートで演奏したりするためのタンギングの仕方などを身に付けることができた。

資料3は、本題材の学習後の児童の振り返りである。下線部からは、曲想にふさわしい表現にすることができたことが分かる。

資料3 児童の振り返り（ワークシートからの抜粋）

- ・ 団と団の部分をイメージして頑張って練習しました。最初と比べると、全然違う演奏になって、植村さんの頑張る姿が思い描けるような演奏になりました。みんなで合わせると楽しいなあと思いました。
- ・ 最初に録音したものは、全然「風を切って」の雰囲気じゃないと思いました。比べて聴くと、雰囲気が変わったのがすごくよく分かりました。
- ・ 前は、あまり考えないで吹いていたけれど、イメージして吹いたり、音符の長さを考えて吹いたら、上手に聴こえてうれしかった。

4 授業研究の成果と課題

(1) 成果

旋律線を基に旋律の特徴をつかみ、曲想を感じ取る活動や音楽全体の曲想を感じ取り、音楽で表現したいイメージをもって表現を工夫する活動を設定したことは、思いや意図をもって表現する力を育てるための手立てとして有効であったと考える。特に、イメージをもって表現を工夫する活動において、「演奏（音で試す）→録音→再生（話し合う）」のサイクルを繰り返したことは、児童が、音や音楽で表現するために必要な知識や技能を身に付けたり、表現に対する思いや意図をもったりするための手立てとして効果があったと考える。

(2) 課題

器楽分野では、楽器の特性や音楽の特徴を踏まえた学習指導が必要である。そこで、題材の学習・指導内容に応じた、適切な教材及び教具の選択をしたり、学習展開をしたりすることで、学習の充実を更に図っていききたい。また、音や音楽を介した話合い活動や表現を練り上げる場面において、自分の考えを豊かに伝え合い、学びを深めていくために、言葉と音や音楽の両方で音楽の特徴を表現できるよう、意図的・計画的に、音や音楽で表現するための知識や技能及び音や音楽を表す語彙の習得を図っていききたい。

【授業研究2】

中学校第1学年「リズムの重なりを生かして表現しよう」におけるイメージしたことを創作で表す力を育てる音楽科授業づくり
ー思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通してー

1 主題設定の理由

平成27年5月に実施した「情景を想像して音楽で表そう」では、自由に楽器の音を出しながら、イメージを膨らませて「船が近付いてきて、遠ざかっていく」場面の様子を音や音楽で表す創作の学習を行った。事後の意識調査（平成27年6月12日実施，調査人数35人）から、「オリジナルの曲をつくることができた」、「みんなと考えるのが楽しかった」、「話し合いながら、イメージに合う音を見付けることができた」など、音楽をつくる楽しさを感じることができた生徒が26人いた。一方で、9人の生徒は、「イメージした音が見付けられなかった」、「リズムを考えることができなかった」、「どのように表してよいのか分からなかった」など、創作の学習に難しさを感じていることが分かった。創作の学習の充実を図ることで、生徒が達成感を味わえるようにすることが課題である。

そこで、中学校第1学年「リズムの重なりを生かして表現しよう」では、A表現(2) 器楽の事項ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること」と(3) 創作の事項イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」を基に、器楽と創作の関連を図る。そのために、器楽の学習では、リズムに関する楽典的な知識やリズムを表現する技能を身に付ける。また、リズムの重なりやリズムと音の組合せによる曲想の変化を感じ取る。それらを生かして、創作の学習では、イメージをもって、つくったリズムの重ね方や音の組合せなどを工夫してリズムアンサンブルをつくる。このような学習を通して、イメージしたことを創作で表す力を育てていきたいと考える。

2 主題に迫るための授業づくり

(1) 題材名

「リズムの重なりを生かして表現しよう」

(2) 題材の目標

リズムや音の重なりに関心をもってリズムアンサンブルをしたり、リズムアンサンブルをつくったりする。

(3) 教材

「打楽器のための小品」 黒澤吉徳 作曲（「中学生の器楽」教育芸術社）

(4) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①リズムや音の重なりに関	①「打楽器のための小品」の	①リズムの特徴や全体の

		・つくった音楽を楽譜に表す。	
		・作品発表会をする。	ウー②

(6) 思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫

ア 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

【器楽】

四分音符、四分休符、八分音符、八分休符を組み合わせたリズムでできている「打楽器のための小品」を教材として、リズムアンサンブルをする。この活動を通して、音符と休符を組み合わせて多様なリズムができることを理解したり、そのリズムを表現したりできるようにする。また、リズムの重なり方や音の組合せによる曲想の違いなどを感じ取れるようにする。

イ 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動

【創作】

アの活動を通して身に付けたことや気付いたことを基に、リズムアンサンブルをつくる活動をする。そして、表現したいイメージをもって、音符と休符を組み合わせてリズムをつくり、その重ね方を工夫し、三声のリズムアンサンブルで表すことができるようにする。

3 授業の分析と考察

(1) 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

【器楽】

「打楽器のための小品」から特徴的なリズムを取り出し、リズム譜を見ながら表現できるようにした。その際、リズム唱を取り入れた。小学校での学習を生かし、四分音符を「タン」、八分音符を「タ」、四分休符を「ウン」、八分休符を「ウ」とした。リズム譜を見て、これらの言葉で表しながら繰り返し表現することで、どのようなリズムなのか、特徴を捉えることができるようになった。また、リズム譜を読むこともできるようになった。

リズムに慣れてきたところで、まずは、手拍子で6パートを合わせていった。その際、2パートまたは3パートずつ合わせることで、リズムの重なり方の特徴などに気付くことができるようにした。資料1は、その活動を通しての生徒の気付きである。

資料1 生徒の気付き（ワークシートからの抜粋）

- ・「タタンタ」のリズムが何度も出てくる。
- ・イの部分で、2回出てくる「タタ」のところがそろろうと気持ちがいい。
- ・「ウタタタ、タタタタ、タ」のところが、みんなで一緒に盛り上がっていく感じで、最後のフォルテシモが決まるとかっこいい。
- ・リズム譜で山のように見えるところは、「タタ」「タタ」「タタ」「タタ」と追いかけてこをしているみたいで面白い。
- ・ア部分は、みんなが違うことをやっていて、賑やかな感じがする。
- ・最後の八分音符は、バシッと決めたい。

次に、パートごとに打楽器を選び、それぞれの音を組み合わせてリズムアンサンブルをした。音の組合せ方によって曲想が変わることに気付くことができた。


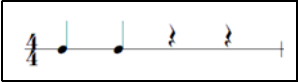
授業後の生徒の感想には、「最初は難しかったけれど、リズムが分かったら楽しくなった」、「いろいろなリズムが演奏できるようになった」、「リズムや音が重なると面白い」などがあった。

生徒は、リズムアンサンブルを通して、リズム譜からリズムを読み取ること、リズムを拍の流れに乗って表現することなどのリズムを表現する技能を身に付けることができた。また、リズムの重なり方の特徴や曲想の違いなどに気付くことができた。

(2) 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動

【創作】

器楽の学習を通して身に付けたことや気付いたことを基に、リズムモチーフの重ね方や楽器の組合せなどを工夫して三声のリズムアンサンブルをつくる。以下は、創作の導入時の展開部分（一部抜粋）である。


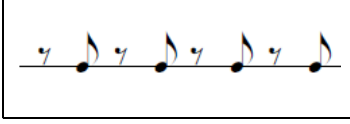
主な学習活動	教師の働きかけ ◆評価（方法）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>動物のイメージに合ったリズムモチーフをつくろう。</p> </div> <p>2 リズム創作をする。</p> <p>(1) 学習の流れを確認する。</p> <p>○ 3人でリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「森の中で・・・」 ・選んだ動物のリズムモチーフをつくる。（個人） ・ストーリーを考え、リズムをつなげたり重ねたりする。（グループ） ・楽器を選ぶ。 ・発表する。 <p>(2) 動物のリズムモチーフをつくる。</p> <p>例) ・たぬき お腹をたたくリズム ポンポコポンポコ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・へび によるによる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div> <p>(3) ストーリーを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「打楽器のための小品」のようなリズムアンサンブルをつくることを伝え、学習の意欲付けをする。 ・学習の流れを把握して、グループで協力してつくり上げを確認し、見通しをもって取り組めるようにする。 ・動物のイメージからリズムを考える活動で戸惑っている生徒には、鳴き声や動きなどからイメージして、言葉で表してみるように助言する。 ・手拍子でリズムを確認しながらつくっていくように促す。 ・リズムモチーフを考えることができた生徒には、付箋を1枚渡し、考えたリズムを4拍分のリズムに整理して表すように助言する。 ・手拍子で表したリズムを楽譜にすることが難しい場合は、個別に支援する。 <p>◆アー①（観察、ワークシート）</p>

本題材における創作では、生徒の実態を踏まえ、リズムモチーフをつくる、リズムの配置や重ね方を考えて三声のリズムアンサンブルをつくる、楽器を組み合わせるという三つの段階を位置付けた。

はじめに、各声部の基本となるリズムモチーフをつくる。そのための手掛かりとなるものが必要であると考え、「森の中で・・・」というテーマを提示した。そして、登場する動物を選び、動物の動きや鳴き声などを表した言葉を手掛かりに、音符や休符を組み合わせ、試しながら、4拍分のリズムモチーフをつくった。資料2 (p.12) は、生徒が考えたリズムモチーフである。記譜については、付箋1枚を1小節とし、その中に

4拍分の音符や休符を書き入れることとした。

資料2 生徒が考えたリズムモチーフ（ワークシートからの抜粋）

<p>動物は…ことり</p> <p>イメージは…かわいい声，鳴いている感じ びびびびび びびび すずめならチュンチュン</p> <p>楽譜に表してみると…</p>  <p>つくったリズムモチーフは… 「びびび」と鳴いている感じを出すために、「タタタン」のリズムを二回使った。このリズムをつなげていくと，もっと鳴いている感じが出せそう。</p>	<p>動物は…うさぎ</p> <p>イメージは…はねる感じ，動きが速い びよんびよん びよーーん</p> <p>楽譜に表してみると…</p>  <p>つくったリズムモチーフは… 難しかった。 はねる感じにしたかったので，休符を入れてみた。間をあけた方がはねる感じがするかな，と思った。</p>
--	--

次に，リズムモチーフから三声のリズムアンサンブルをつくる。そのために，自分たちの考えた動物が登場するストーリーづくりを行った。このストーリーは，リズムモチーフの配置や重ね方を考える手立てになると考えた。資料3は，ストーリーを基につくったリズムアンサンブルの楽譜である。

資料3 ストーリーを基につくったリズムアンサンブルの楽譜

<p>楽譜Ⅰ <ストーリー（抜粋）> ヘビはくまを追いかけて，たぬきはヘビを追いかけて，くまはたぬきを追いかけて，最後にハッピーエンドになりました。</p> <p style="text-align: center;">ヘビと仲かいな仲間たち</p> 	<p>楽譜Ⅱ <ストーリー（抜粋）> たぬき，きつね，うさぎが森の中で出会い，楽しく遊ぶ様子</p> <p style="text-align: center;">森の中</p> 
---	--

資料3のストーリーを基につくったリズムアンサンブルの楽譜Ⅰでは，追いかけている感じを出すために，三つのリズムモチーフを順番に重ねている。また，楽譜Ⅱでは，交互にリズムモチーフを配置することで，徐々に仲良くなっていく感じを表している。生徒は，「この方が面白いよ」，「逃げる様子は，順番に重ねてみよう」など，「打楽器のための小

品」での気づき（資料1，p.10）を生かしてアイデアを出し合った。そして、実際に音にして試しながらリズムモチーフの配置や重ね方を考え、音楽を構成していった。最後に、楽器を組み合わせ、自分たちの音楽をつくり上げた。

資料4は、本題材の学習後の感想である。5月に行った創作では、音楽をつくる楽しさを感じることができたが、つくった音楽については、「どうして『ジョーズのテーマ』みたいにならないのかな」と、イメージしたことを表現する難しさを感じていた。資料4からは、自分のイメージしたことをリズムアンサンブルで表すことができたことが分かる。

資料4 生徒の感想（ワークシートからの抜粋）

- ・リズムを音符や休符でかたちにしていくのは難しかったけれど、なんとか自分の考えをリズムで表すことができた。
- ・リズムの組合せを変えると違う感じになることが分かった。いろいろ試してみて、みんな「これだ！」というのを決められた。
- ・みんなのつくった音楽を聴いて、「おおっ」と思った。いろいろな工夫があった。
- ・リズムで自分たちの考えたストーリーの音楽ができてうれしかった。

4 授業研究の成果と課題

(1) 成果

器楽において、リズムに関する楽典的な知識やリズムを表現する技能を身に付け、リズムの重なり方や音の組合せによる曲想の違いなどを感じ取れるようにした。そして、それらを基に創作する学習を位置付けたことは、表現したいイメージを膨らませながら、リズムをつくり、その重ね方を工夫して三声のリズムアンサンブルをつくることにつながった。器楽と創作の関連を図ったことは、イメージしたことを創作で表す力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

(2) 課題

年間指導計画を見直し、他の領域や分野との関連を図った題材構成の工夫をするなど、創作の学習指導の工夫改善を更に図っていきたい。その際、どのような学習・指導内容を創作に生かすのかを明確にすることで、それぞれの学習の質を高めていけるようにする。

【授業研究3】

高等学校第1学年「音楽の特徴を生かして表現しよう」における表情豊かに歌唱表現する力を育てる音楽科授業づくり

－思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して－

1 主題設定の理由

生徒の意識調査（平成27年8月31日実施，調査人数 120人）を実施した。「自分が工夫したことを実際の演奏で（聴き手に伝わるように）上手に演奏できていると思いますか。」という質問に対して，79%の生徒は，できているという実感がもてていないことが分かった。さらに，「その原因として考えられることは何ですか。」と質問してみると，「表現するための技術がない」，「どのように表現すればよいか分からない」，「声がうまく使えない（そもそも声が出ていないから）」などが挙げられ，表現するために必要な技能が身に付いていないと感じていることがうかがえる。また「自分の工夫したことが，聴き手に伝わる演奏ができるようになりたいと思いますか。」という質問に対しては，92%の生徒が「できるようになりたい」と回答している。これらのことから，生徒自身が，自分の思いや意図が伝わる演奏ができたという実感がもてるように，学習指導の工夫改善を図ることが課題である。

そこで，高等学校第1学年「音楽の特徴を生かして表現しよう」では，歌唱の事項ア「曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り，イメージをもって歌うこと」と事項エ「音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して歌うこと」を踏まえ，音楽の特徴，歌詞の意味や歌詞の表す心情を捉えて，表情豊かに歌唱表現することをねらいとする。そのために，音楽の特徴や歌詞の内容から，表現したい音楽のイメージを膨らませ，それを音や音楽で表現するために，必要な知識・技能として息の使い方などを身に付け，音色や強弱を変化させて歌唱表現できるようにする。このような学習を通して，表情豊かに歌唱表現する力を育てていきたいと考える。

2 主題に迫るための授業づくり

(1) 題材名

「音楽の特徴を生かして表現しよう」

(2) 題材の目標

音楽の特徴や歌詞の内容から，表現したい音楽のイメージを膨らませ，思いや意図をもって歌う。

(3) 教材

「花の街」 江間章子 作詞／團伊玖磨 作曲

「キミの夢」 吉野莉紗 作詞／松井孝夫 作曲

(4) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①音楽の特徴や歌詞の内容に関心を持ち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律、リズム、音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたり、歌詞の内容を捉えたりしている。 ②音楽の特徴や歌詞の内容から、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫（音色、強弱など）し、どのように歌うかについて表現意図をもってしている。	①音楽の特徴や歌詞の内容からイメージをもって音楽表現をするために必要な歌唱の技能（息の使い方など）を理解したり身に付けたりして、創造的に表している。

(5) 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	音楽を形づくっている要素	評価規準
第1次 (3)	○音楽の特徴や歌詞の内容を捉え、音色や強弱を工夫して歌い、音楽に表情をつける。	⑧「花の街」 ・参考演奏を鑑賞し、演奏者が歌い方の工夫をしているところや表現が工夫されているところを見付ける。	音色 強弱 旋律	アー①
		・歌詞の表す心情を感じ取り、音色の工夫をする。		イー① イー②
		・クレッシェンドの歌い方を工夫する。		イー① イー②
第2次 (5)	○楽曲にふさわしい音楽表現になるように歌い方の工夫をして表情豊かに合唱する。	⑧「キミの夢」 ・前半部分の音取りをする。 ・旋律、リズム、強弱などの要素を基に、前半部分の楽曲の構成を捉える。	音色 強弱 旋律 リズム	アー①
		・自分たちが一番表現したい部分について歌い方を考える。 ・考えた歌い方を試し、ふさわしい歌い方を見付ける。		イー①
		・前時の活動を生かし、冒頭から		イー②

	前半部分の歌い方を工夫する。	
	<ul style="list-style-type: none"> 後半部分の音とりと歌い方の工夫をする。 前半部分と後半部分をつなげて歌う。 	イー① イー②
	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図が音や音楽として表現できているか確かめながら、表現を練り上げる。 自分たちの演奏を録音し、鑑賞する。 	ウー①

(6) 思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫

ア 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

表情豊かに歌唱表現する力を育てるために、まず、表現方法を具体的に理解できるようにする。そのために、参考演奏から表現方法を学ぶ鑑賞活動と、身体の動きを取り入れた表現活動を位置付ける。

イ 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動

音楽の特徴や歌詞を手掛かりにして音楽に表情がつけられるようにする。そのために、自分たちの表現したい音楽のイメージを音や音楽にしていく活動を位置付ける。

3 授業の分析と考察

(1) 音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動

ア 参考演奏から表現方法を学ぶ鑑賞活動

表1は、生徒が、「花の街」の参考演奏において注目した歌い方の工夫と効果についてまとめたものである。

表1 注目した歌い方の工夫と効果（ワークシートからの抜粋）

注目した歌い方の工夫と効果	工夫点
一番の「ながれていく」、二番の「あふれていた」、三番の「 <u>な</u> いていたよ」それぞれの歌詞に合った抑揚があった。 <u>様子の違いが伝わってきた。</u>	音色・ <u>強弱</u> ・ <u>テンポ感</u> ・ <u>表情</u> ・ <u>発声の仕方</u> その他（ ）
「わになって、わになって」の2回目の「わになって」の部分が1回目とずいぶん強さが違い、 <u>輪が大きくなっていくような感じがした。</u>	音色・ <u>強弱</u> ・テンポ感・ <u>表情</u> ・ <u>発声の仕方</u> その他（ ）
「 <u>かけていったよ</u> 」の部分が最も強いフォルテになっていて、 <u>お腹の底から声が出ているみたいだ。駆け抜けていったような感じがする。</u>	音色・ <u>強弱</u> ・テンポ感・ <u>表情</u> ・ <u>発声の仕方</u> その他（ ）
三番の「 <u>ひとりさびしく</u> 」の部分が <u>すごく悲しい感じがした。曲の終わりに近づくにつれてテンポがゆっくりになり、音も小さくなっていく。</u>	音色・ <u>強弱</u> ・ <u>テンポ感</u> ・ <u>表情</u> ・ <u>発声の仕方</u> <u>その他</u> （気持ちの入れ方 ）

生徒は、歌詞の内容（表1下線部）によって音楽の表情（表1波線部）が変わること、そのために何をどのように変える（表1破線部）と効果的な演奏になるのかということに気付くことができた。

イ 身体の動きを取り入れた表現活動

アの活動における気付きを生かして、生徒が注目した部分から二つを取り上げ、実際に歌う活動を位置付けた。

まず、同じ旋律に異なる歌詞が付けられている部分である。生徒は、「ながれていく」、「あふれていた」、「なっていたよ」という歌詞によって音楽の表情が変わっていることに注目していた。ここでは、その違いを音色で表現できるようにするために、これらの歌詞のイメージを手の動きで表現する活動を取り入れた。表2は、生徒が考えた手の動きと表現のポイントである。

表2 生徒が考えた手の動きと表現のポイント

歌詞	手の動き	表現のポイント
ながれていく	<ul style="list-style-type: none"> ・手を進ませる ・手を横に流す ・手をスーッと滑らせる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・息のスピードが速い ・声が前に進んでいく感じ
あふれていた	<ul style="list-style-type: none"> ・胸のあたりから大きな円を描く ・手を下から上へ巻き上げる ・手を広げていく 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・息のスピードがだんだん上がる ・声が広がる感じ ・声が上に向かう感じ
なっていたよ	<ul style="list-style-type: none"> ・下を向く、うつむく ・手を組みぐっと下に下ろす ・手を前から自分の胸の方に寄せる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・息のスピードが遅い ・声が下に向かっている感じ

次に、同じ言葉が2回繰り返されている部分である。生徒は、「わになって、わになって、かけていったよ」の部分で、「わになってという言葉繰り返して歌い、一番の盛り上がりをつくっている」、「2回目を大きくすることで、輪が大きくなった感じがする」、「かけていったよを最も大きくすると駆け抜けていった感じがする」など、強弱による表現の効果に注目していた。この部分では、「風のリボン」が、輪になって駆け抜けていくイメージできるように、実際にリボン（ビニールテープ）を用いて、それを動かす活動を取り入れた。「わになって」、「わになって」、「かけていったよ」の三つの言葉をつなげ、駆け抜けていく感じが表れるようにするためには、段階的に勢いをつけていかなければならないことに気付くことができた。そして、その動きに合わせて歌うことで、息の速さや量によって強弱が付けられることに気付くことができた。

このような身体の動きを取り入れた表現活動を通して、表現のイメージをもったり、音色や強弱を変えるための息の使い方を理解したりすることができた。

(2) 習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動

「キミの夢」では、(1)の活動を通して身に付けたことや気付いたことなどを基に、音楽の特徴や歌詞を手掛かりに、音楽に表情を付けて表現できるようにするために、まず、音楽全体の特徴をつかむ活動を取り入れた。雰囲気の変化を手掛かりに、音楽を四つの部分に分けた。次に、その中から、自分たちが一番伝えたい部分を選び、自分たち

の表現したい音楽のイメージを音や音楽にしていく活動を位置付けた。生徒が選んだのは、曲の山に当たる8小節の部分である。表3は、この部分の音楽の特徴と表現したい音楽のイメージである。

表3 曲の山の部分の音楽の特徴と表現したい音楽のイメージ（ワークシートからの抜粋）

音楽の特徴（知覚・感受）	表現したい音楽のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・誰かに向けてメッセージを送っている感じ ・曲の雰囲気がまた明るくなって、世界が広がっていく感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを訴えかけるように歌いたい ・少し堂々とした感じで歌いたい
<ul style="list-style-type: none"> ・<i>mf</i>から<i>f</i>になっている ・今まで八分音符だったのが、四分音符からの歌い出しなので、のびのびした感じになった ・音程も階段のように上がっていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そだてよう」にスラーをつけて、クレッシェンドとディミニエンドをつけて、のびのびと歌いたい
<ul style="list-style-type: none"> ・クレッシェンドによってさらに大きく壮大な感じになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・力強く、流れるように、広大に

このイメージを音や音楽で表すためには、声の広がりやフォルテの声の出し方などを工夫することが必要である。そのために、旋律の動きや歌詞のイメージを手の動きで表すことを手立てとした。そして、その動きに合わせて歌うことで、息の速さや量、音の向きなどを試しながら、声を広げたり膨らませたりして、強弱や音色を変化させ、音楽に表情を付けていった。

さらに、曲の山に向かう部分の歌い方の工夫をすることを取り上げた。表4は、その部分の音楽の特徴と表現したい音楽のイメージである。

表4 曲の山に向かう部分の音楽の特徴と表現したい音楽のイメージ（ワークシートからの抜粋）

音楽の特徴（知覚・感受）	表現したい音楽のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・<i>mf</i>から<i>mp</i>へ、少し優しくなった ・<i>p</i>→<i>cresc.</i>→<i>mf</i> 強弱が変わる ・新たなスタートを切る前の不安な感じから、扉を開いて、力強くスタートする感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めを<i>p</i>にすることによって夢が芽生えたスタートを表し、クレッシェンドで夢がだんだん大きくなっていく様子を表したい
<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏が変わった ・リズムが細かくなった ・わくわくした感じ ・未来への思いがだんだん高まっていく感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢見た瞬間から」は、わくわくした気持ちで、弾むように歌いたい ・だんだん大きくして前進していく感じを出したい

ここでは、リズムの変化を生かして歌うための手立てとして、伴奏のリズムを手の動きで表すことを取り入れた。生徒は、両手を軽く握り、伴奏の四分音符の刻みに合わせて、それを上下に動かしたり、左右に動かしたりしていった。それに合わせて身体も自然に動き始め、身体全体でリズムを感じる姿も見られた。手や身体の動きに合わせて息の使い方を工夫したり、音の方向性を意識したりして歌うことを通して、リズムの変化を生かした表現をすることができた。

また、この部分は、強弱が細かく変化している。そこで、強弱の意味を考え、それを歌唱表現につなげるために、強弱の変化に合わせて手を動かしてみるよう促した。ピアノでは、手の振り幅を小さく、軽く、メゾピアノからピアノに変わるところでは、フレーズの

頭の八分休符でためをつくり、ピアノからメゾフォルテに向かうクレッシェンドでは、手の振り幅をだんだん大きく、力強くした。これらの動きから、強弱によって手を動かすエネルギーに違いがあることに気付くことができた。そして、生徒は、それを声で表現するために、息の速さや量を試しながら、強弱記号に応じた歌い方を工夫し、音楽に表情を付けていった。

資料1は、本題材における生徒の学習の記録である。学習を通して、自分たちの表現したい音楽のイメージを歌唱で表現できるようになったことがうかがえる。

資料1 生徒の学習の記録（ワークシートからの抜粋）

- ・曲の変化に対して、自分たちがその変化をどう表現するかを考えて、手の動きを使いながら表現できるようになった。手の動きをつけて歌った時、その部分部分の雰囲気などがイメージしやすくなって、それと同時に声も出て、気持ちも入りやすくなった。
- ・手の動きをつけて、何度も何度も試してみたので、強弱を表現できるようになったと感じた。
- ・手の動きを変えることで、声をどのように出せばよいのかを理解することができた。手を横にすれば優しい感じになり、手の振り幅を大きくすると声も大きくなったりすることを自分自身で実感できた。

また、授業実施後に行った意識調査（平成27年11月15日実施、調査人数 116人）では、「聴く人に自分が工夫したことが伝わる演奏ができるようになりましたか。（表現力が高まりましたか）」という質問に対して、92%の生徒ができるようになったと回答している。この結果から、自分の思いや意図が伝わる演奏ができたという実感もてたと捉える。

4 授業研究の成果と課題

(1) 成果

参考演奏から表現方法を学ぶ鑑賞活動や身体の動きを取り入れた表現活動、自分たちの表現したい音楽のイメージを音や音楽にしていく活動を位置付けたことで、音楽の特徴や歌詞の内容から、表現したい音楽のイメージを膨らませ、強弱や音色を工夫して音楽に表情を付けることができるようになった。このことから、これらの活動は、表情豊かに歌唱表現する力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

(2) 課題

本研究を通して高まった歌唱表現への思いを基に、音楽表現を更に高めていきたい。具体的には、生徒の基礎的な表現の技能を高めていくための学習指導の工夫、自分たちの表現を客観的に聴き、そこから課題を見だし、表現を練り上げていくなどの学習活動の工夫改善に取り組む。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫を通して、表現領域における表現力を育てる音楽科授業づくりについて研究を進めた結果、次のような成果が見られた。

【授業研究1】（小学校）

音楽の特徴（音楽を形づくっている要素や曲想）を捉え、音楽で表現したいイメージをもって表現を工夫する活動を設定したことは、曲想から表現に対する思いや意図をもち、曲想にふさわしい表現をすることにつながったことから、思いや意図をもって表現する力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

【授業研究2】（中学校）

器楽との関連を図り、器楽で学習したことを基に創作に取り組めるようにしたことは、表現したい音楽のイメージを膨らませながら、リズムをつくり、その重ね方を工夫して三声のリズムアンサンブルをつくることにつながったことから、イメージしたことを創作で表す力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

【授業研究3】（高等学校）

参考演奏から表現方法を学ぶ鑑賞活動や身体の動きを取り入れた表現活動、自分たちの表現したい音楽のイメージを音や音楽にしていく活動を位置付けたことは、表現方法を具体的に理解し、それを基に、音楽に表情を付けることにつながったことから、表情豊かに表現する力を育てるための手立てとして有効であったと考える。
以上のことから、思考・判断し、表現する一連の過程における学習活動の工夫において、活動のねらいや内容を明確にした、音や音楽で表現するために必要な知識や技能を習得する活動や、習得した知識や技能を活用し、自分にとって価値ある音楽をつくり出す活動を位置付けたことは、表現領域における表現力を育てることにつながったと考える。

2 課題

本研究では、表現領域における表現力を育てるために、児童生徒に付けたい力を具体的に設定し、その力を付けるための方法を考え、実践してきた。その結果、各授業研究における課題に示したように、更に意図的、計画的、継続的な指導が必要であることが分かった。

そこで、小・中・高等学校における学習・指導内容の連続性、系統性を踏まえ、各校種において身に付けさせるべき学習・指導内容を、児童生徒が確実に身に付けられるように、適切な学習指導を展開し、学習の質を高めていくことで、表現領域における表現力を育てる研究を更に深めていきたいと考える。

<引用文献>

文部科学省

「小学校学習指導要領解説音楽編」平成20年8月

「中学校学習指導要領解説音楽編」平成20年9月

「高等学校学習指導要領解説芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」
平成21年12月

<参考文献>

国立教育政策研究所教育課程研究センター

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 音楽）」
平成23年11月

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽）」
平成23年11月

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔音楽〕）」
平成24年 7月

関係者一覧

1 研究協力員

神栖市立太田小学校	教諭	幡 明枝
常陸大宮市立大宮中学校	教諭	栗本 真樹子
県立境高等学校	教諭	塚田 こずえ

2 茨城県教育研修センター

	所長	石崎 千恵子
教科教育課	課長	金子 敏久
同	指導主事	石川 真裕美